

各位

『印象派』花の写真展 リリズムム

写真作家 古谷 彰男

この度、出展者 古谷彰男は9月3日(土)~9月25日(日)、西宮市北山緑化植物園 展示コーナーにおいて、第2回『印象派』花の写真展 リリズムムを開催します。

写真作家 古谷彰男の情感あふれる花の写真作品 20点を展示します。写真作品は、西宮市北山緑化植物園を中心に撮影した叙情的写真です。光で描く花妖精のささやきを独自の撮影技法で表現する「magical bokeh (マジカル・ボケ)」によって生み出された、とろけるような光のにじみと空気感が特徴です。

昨年開催した『印象派』花の写真展のテーマ「聞こえるかな? 妖精たちのささやきが・・・」の続編として、映像作品を上映するミニシアターにもチャレンジします。ショパンのクラシックピアノ音楽「夜想曲第2番 Op 9-2」と印象派写真を組み合わせた写真スライドショー「The Lyricism of Chopin」を上映します。

ショパンのピアノ音楽と印象派写真が生み出す「妖精たちのささやき」を体験してください。

※写真スライドショー 上映予定

3日(土)、4日(日)、11日(日)、18日(日)、22日(木祝)、25日(日)

13-16時

タイトル : 第2回『印象派』花の写真展 リリズムム

テーマ : 「ショパンのピアノ曲と響きあうその瞬間に見えるものがある」

期間 : 9月3日(土)~25日(日) ※水曜日は休館

展示会場 : 西宮市北山緑化植物園 展示コーナー

出展者 : 写真作家 古谷彰男 (ふるたに あきお)

宝塚市在住。モネ、ルノワールなどの光を描く印象派画家のような、柔らかで繊細な光の描写を写真で実現し、現実の世界にある生命の深い感動と叙情性を表現する写真作家。

2013年写真集「mugen」、2014年写真集「Magical」、2015年写真集「Lyricism of Fairies」

写真作家 森田雅章主宰「花くらぶ」会員、芦屋写真協会会員

2015年 個展『印象派』花の写真展 妖精たちのリリズムム

連絡先メール furutani@innovation-i.com

連絡先電話番号 090-1157-1618

『印象派』花の写真展 参考情報

写真作家 古谷彰男が取り組む作品づくりは、その特徴において 19世紀の新芸術運動『印象主義』の影響を受けています。100年以上前の印象派画家の絵画の「光の表現」と写真の「レンズ効果による光描写」には密接な関係があるのです。

【リリズム (lyricism)】

叙情性、叙情詩的な趣。「叙事的写真」は客観的「事実」を表現するのに対し、「叙情的写真」では主観的体験や思索に基づく内的「感動」を表現します。

【印象派絵画と写真の関係】

19世紀の後半に、モネ、ルノワールなどの印象派画家によってアートの歴史は変わりました。「印象派絵画」は、光をとらえ、鮮やかな色彩を用いて、大胆なタッチで描かれました。写実主義の絵画がハッキリした描写で「ストーリー」を伝える一方、印象主義の絵画は、眼の前の光景の「印象（感動）」を、柔らかで繊細な「光の描写」で伝えました。実は、この作品展は1874年フランス・パリの写真館ナダールで開催されており、印象派絵画と写真、そしてジャポニスムは歴史的に密接な関係があることがわかります。「印象派写真」は、このある秘密から生み出しました。

【光を描いたモネ、ルノワール】

1840年に生まれたクロード・モネは、第一回印象派展で出品した「印象・日の出」が話題となり、輪郭を描かないため、当時はデッサンもできない画家と揶揄されました。しかし、その後のアートの世界を一変させたことはまちがいありません。1983年からジヴェルニーの自邸で描き続けた「睡蓮」の大作はパリのオランジュリー美術館に所蔵されています。日本では、大山崎山荘美術館、直島の地中美術館などにも「睡蓮」があります。1841年に生まれたルノワールは、モネの友人で、数多くの花の絵画作品があります。

【色の魔術師 ゴッホ】

1853年に生まれたゴッホは、1866年にパリに出て印象派を知り、その後「アルレルの跳ね橋」「ひまわり」「夜のカフェテラス」など印象派絵画を次のステージへと発展させました。対象をそのまま描かない(脱写実)ことはもちろんですが、科学的な色研究を土台にした、補色(赤と緑、青と黄色、紫と黄色など)の対比によって見る人の印象(感情)をコントロールします。それが「色の魔術師」たるゆえんです。

【近代日本画との関連性】

浮世絵によってジャポニズムの影響を受けたフランスの印象派絵画は、その後近代日本画にも影響を与えました。明治時代に日本に入ってきた、いわゆる「西洋絵画」は日本画にも新しい進化を促しました。近代日本画を産んだ東京美術学校(1887年創設、現、東京芸術大学)の第一期生である横山大観、菱田春草などの独自画法「色彩点描画法」「無線画法(朦朧体と揶揄された)」もそのひとつです。

以上